

# たまねぎレポート【第396号】



令和2年10月26日

阪南青果株式会社

## 社内報

9月の天気は、気温は北・東日本でかなり高く、西日本で高かった。降水量は西日本の日本海側で多かった。日照時間は西日本の太平洋側と沖縄・奄美でかなり少なかった。台風9号と10号が接近した影響で、西日本と沖縄・奄美を中心に大雨の影響で広い範囲で大荒れとなった。10月は平年に比べ気温の高い日が多い。

気象庁の11～1月の3か月予報によると、この期間の平均気温は、北日本で平年並みまたは高い確率ともに40%。降雪量は、北日本の日本海側で平年並みまたは少ない確率ともに40%。月別予報は次の通り。

11月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨亦是雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では期間の後

半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。

12月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。東・西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

1月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

## 野菜の概況

建値市場の9月の野菜の販売量は、228,826トン前年比98%、平均単価はkg ¥ 230前年比97%。夏場の高値相場が漸く沈静化し、月間平均値は前年を下回った。市場別の販売量と平均単価では、札幌市場の販売量は前年比93%、平均単価はkg ¥ 172前年比100%。東京市場の販売量は前年比97%、平均単価はkg ¥ 249前年比97%。名古屋市場の販売量は前年比106%、平均単価はkg ¥ 217前年比94%。大阪本場の販売量は前年比98%、平均単価はkg ¥ 228前年比98%。福岡市場は前年比99%の販売量で、平均単価はkg ¥ 199前年比99%となっている。

建値市場の9月の玉葱販売量は25,842トンで前年比103%、(前月比103%)、平均単価はkg ¥ 78前年比96%、(前月比77%)。で平年水準を下回った。北海産の早生物が大幅に増加し、出荷が前進化したが、前年も品質が今ひとつで、市場の評判を落としたSN系品種が、前年比5割もの増反となり、出荷時期を逸したために、着後の品質劣化が早く、腐敗が多発、価格安の一因と

なった。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は4,216トン前年比90%、平均単価はkg¥66前年比92%。東京市場の販売量は9,635トン前年比106%、平均単価はkg¥83前年比98%。名古屋市場の販売量は5,688トン前年比118%、平均単価はkg¥75前年比94%。大阪本場販売量は3,831トン前年比91%、平均単価はkg¥82前年比104%。福岡市場の販売量は2,472トン前年比105%、平均単価はkg¥84前年比93%となっている。

日本農業新聞社の集計値では、主要7地区代表荷受7社の9月の主要野菜14品目の販売量は102,291トン前年比6%減、平均単価はkg¥139前年と同じで、平年(過去5年平均)比8%安となり、3か月ぶりに平年を下回った。

販売が前年比増となった品目は、結球レタスが前年比17%増、トマトが12%増、ピーマンが7%増など4品目。販売量が前年比減となった品目は、ホウレンソウが前年比23%減、ダイコンが19%減、ネギが14%減など10品目。タマネギは10%減。価格が前年比高となった品目は、ダイコンがkg¥89で前年比22%高、キャベツがkg¥98で21%高、ジャガイモがkg¥99で16%高など6品目。前年比安となった品目は、結球レタスがkg¥99で前年比38%安、トマトがkg360で19%安、ナスがkg¥316で8%安など8品目。タマネギはkg¥66で3%安、平年(過去5年平均)比では20%安となっている。

東京都中央卸売市場の9月の野菜の入荷量は、120,742トン前年比97%(前月比102%)。平均単価はkg¥249前年比97%(前月比81%)に値下がりした。入荷が前年比増の品目は、トマトが前年比111%、レタスが110%、ピーマンが108%など7品目。入荷が前年比減の品目は、ホウレンソウが前年比78%、ダイコンが85%、ネギが88%など8品目。販売価格が前年比高の品目はキャベツがkg¥120で前年比128%、ダイコンがkg¥107で1

24%、ホウレンソウがkg¥929で117%など7品目。前年比安の品目は、レタスがkg¥122で前年比61%、トマトkg¥374で81%、ナスがkg¥335で86%など8品目となっている。タマネギは別表の通りでkg¥83で前年比93%（前月比72%）となっている。

### 東京都中央卸売市場の9月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	120,742	96.8	101.7	249	97.2	80.8
た ま ね ぎ	9,635	105.7	99.1	83	98.1	71.6
キ ャ ベ ツ	15,430	91.9	99.5	120	128.4	72.3
レ タ ス	9,824	110.0	135.6	122	61.2	44.5
は く さ い	9,590	94.2	172.6	96	95.4	56.1
だ い こ ん	8,558	84.7	111.5	107	123.9	93.0
ば れ い し ょ	7,545	105.8	106.7	118	110.5	71.1
き ゆ う り	7,161	90.1	82.7	346	111.7	93.3
に ん じ ん	7,075	99.3	101.3	116	97.0	74.4
ト マ ト	7,018	111.0	81.1	374	80.8	107.5
ね ぎ	3,797	88.2	95.2	342	105.2	97.4
か ぼ ち ゃ	3,250	97.8	141.8	137	96.2	56.6
な が い も	949	94.9	103.3	363	112.1	96.8
れ ん こ ん	854	98.8	225.3	458	104.2	73.4
に ん に く	<b>218</b>	76.1	85.2	923	115.8	97.4

## 玉葱の概況

### 東京市場

東京都中央卸売市場の9月の玉葱の入荷量は9,635トン前年比106% (前月比99%)で、府県産は主力産地の佐賀・兵庫が大幅減となったが、豊作の北海道産の入荷が順調で総じては前年比増となった。主力の北海物の入荷は9,261トン前年比109%、占有率96%前年比3ポイントアップ。中国物が186トンの入荷で83%、占有率2%前年比0.5ポイントダウン。兵庫物は108トンの入荷で76%、占有率1%前年比0.5ポイントダウン。佐賀物の入荷は26トンで前年比13%の大幅減。総平均単価はkg ¥83前年比98% (前月比72%)で続落した。産地別では、北海物はkg ¥82前年比98%。兵庫物はkg ¥148前年比139%。佐賀物はkg ¥146前年比183%となっている。品質的には佐賀物より兵庫物が優るが、知名度は佐賀物の方が高い。

10月に入り、北海道産地では出荷の最盛期迎え潤沢な入荷が続いている。品種は極早生から早生に移行し、9月に比べ品質的には良くなったものの、主力のJA銘柄にも表皮が薄く、日持ちの悪い物が目に付く。市場内は終始荷凭れ傾向で軟調相場が続いている。球流れは2L10%、L大80%、L10%でL大の動きが鈍化した。昨今では、品質的には安定化したが、荷動きが鈍く捌き切れていない。北見管内は出荷が前進化しているので、11月には出荷調整を実施すると聞いているが、採算に乗る市況回復は厳しい。

10月1日～20日の販売量は7,137トン前年比122%、総平均単価はkg ¥77前年比95%。産地別では、主力の北海物の入荷は6,950トン前年比122%、平均単価はkg ¥77前年比95%。中国物の入荷は116トン前年比80%、平均単価はkg ¥88前年比99%。兵庫物の入荷は37トン前年比82%、

平均単価はkg¥152前年比118%となっている。

### 名古屋市場

名古屋中央卸売市場の9月の玉葱販売量は5,688トン前年比118%（前月比92%）で前年比増、前月比減となっている。主力は北海物で、北海物の販売量は5,275トン前年比114%、占有率は93%で前年比3ポイントダウン。兵庫物の販売量は60トン（B級品）前年比45%、占有率1%前年比2ポイントダウン。愛媛物の販売量が281トン前年はなし、占有率5%。中国物の販売量は33トン前年比211%。総平均単価はkg75前年比94%（前月比73%）で、府県物・北海物ともに品質が今ひとつで値下がり傾向が続いた。北海物は下旬から順次優良品種に切り替わった。旬別価格は、上旬kg¥80、中旬¥72、下旬¥75となっている。産地別の月平均値は、北海物はkg¥77で前年比96%。兵庫物（B級品）はkg¥30前年比67%。愛媛物はkg¥60、中国物はkg¥81前年比108%となっている。

10月に入り、北海物の入荷はピークに達したものの、荷動きは今ひとつで、荷凭れ状態が常態化し厳しい販売環境が続いている。転送業者の仲卸に対する売り込みが活発で、JAの希望値と¥200~300もの差が生じ、商圈を浸食されている。特に球流れはL大の比率が高く、L大の在庫が増加した。今週は、JA北みらいの入荷は出荷調整で減少する予定だが、現状は在庫過多に加え荷動きが非常に悪く、在庫が積み上がっているため、出荷止めにでもしないと、回復は望めそうにない。

### 大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の9月の玉葱の販売量は、3,831トン前年比91%（前月比102%）で前年比減・前月比増となっている。前月と同様で北海物が大幅増となったが、在庫減の兵庫物が大幅減となった。主力の北海物の販

売量は、3,269トン前年比149%、占有率85%前年比33ポイントアップ。兵庫物は547トン前年比45%、占有率14%前年比15ポイントダウン。総平均単価はkg¥82前年比104%(前月比75%)で弱含みの横這い相場が続いた。旬別では、上旬¥82、中旬¥82、下旬¥81であった。産地別月間平均単価は、北海物はkg¥73で前年比95%。兵庫物はkg¥134前年比156%。となっている。

10月に入り、兵庫の冷蔵物は入荷が少なく強保合、北海物は入荷順調で弱含み相場となっている。兵庫物はこだわり筋の引きが強く、需給は総じてタイトであるが、2Lは引きが弱く割安で、荷主からは採算割れになっていると叱責されている。北海物は入荷が多く荷凭れ状態が続いているものの、卸・仲卸の拡販努力で量的には捌けている。

10月1日～20日の入荷量は3,076トン前年比148%、平均単価はkg¥78前年比98%。産地別では、主力の北海物の入荷は2,693トンで前年比182%、平均単価はkg¥68前年比89%。兵庫物の入荷は374トン前年比80%、平均単価はkg¥151前年比157%。となっている。

### **福岡市場**

福岡市中央卸売市場の9月の玉葱販売量は、2,472トン前年比105%(前月比140%)で、前年比、前月比ともに増となっている。北海物が大幅増で佐賀産を始め府県産が大幅減となった。主力は北海物で、販売量は2,202トン前年比130%、占有率は89%で前年比17%アップ。中国物は106トンで前年比69%、占有率は4%前年比3ポイントダウン。長崎物は75トンで前年比51%、占有率は3%前年比3ポイントダウン。佐賀物は61トンで前年比23%、占有率は2%で前年比9ポイントダウン。総平均単価はkg¥84前年比93%(前月比69%)。産地別の平均単価は、北海物はkg¥83前年比93%。中国

物はkg¥80前年比98%、長崎物はkg¥101前年比93%。佐賀物はkg¥85前年比108%。となっている。

10月に入ってからも、北海物の入荷は潤沢で、軟調乍ら価格維持を念頭に勉売し、横這い相場を保っている。今週は出荷調整が実施される予想で、需給は多少改善の方向に向かうと思う。現在も他市場に比べると勉売していると思っている。気温低下とともに煮物野菜の需要期となり、玉葱の荷動きが良くなることを期待している。

10月1日～20日の販売量は1,824トン前年比121%、平均単価はkg¥77前年比90%。前月に続き数量増の単価安となっている。

#### 10月26日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

**【札幌市場】** 入荷176トン せり売りなく、相対販売 強い

北 海 20kgDB2L ¥1,600～1,100、L大 ¥1,600～1,100、L ¥1,400～1,000、  
M ¥1,200～ 900。

北 海 20kgNT2L ¥1,200～ 900、L大 ¥1,200～ 900、L ¥1,100～ 800、  
M ¥1,000～ 700。

**【太田市場】** 入荷183 トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥1,500～1,300、L大 ¥1,500～1,100、L ¥1,400～1,200  
M ¥1,400～1,200。

**【名古屋北部】** 入荷74 トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥1,400～1,200、L大 ¥1,400～1,200、L ¥1,400～1,200、  
M ¥1,300～1,200。

**【大阪本場】** 入荷237 トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥1,300～1,100、L大 ¥1,300～1,100、L ¥1,300～1,200、



M ¥ 1,200 ~ 1,100。

兵 庫 10kgDB2L ¥ 1,300 ~ 1,100、L ¥ 1,800 ~ 1,300、M ¥ 1,500 ~ 1,300。

【福岡市場】 入荷186 トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥ 1,500 ~ 1,300、L大 ¥ 1,600 ~ 1,300、L ¥ 1,400 ~ 1,200、

M ¥ 1,300 ~ 1,200。

### 供給(産地)の動き

9月の出回り量の主力は、北海産で府県産は即売物終了で冷蔵物に移行した。今年度の府県産の冷蔵物は、全玉連の調べでは9月4日現在の在庫は、19、394トン前年比71%となっている。他方、北海物は昨年以上の豊作となったことや、早生種の増反で、出荷は前進化し大幅に増加した。為に、9月の市場向けの出回り量は、前年を上回り供給過剰傾向が強まり、10月に入ってから潤沢な出回りで、市況はギリ貧状態が続いている。輸入物は日本の市況安と現地相場が堅調で入荷は減少傾向にある。

### 府県産地

冷蔵物の主力産地である兵庫(淡路島)では、過去に例を見ない病害と品質劣化に見舞われ、冷蔵物も商品化率は低下しているものの、市況は品薄高で堅調を維持している。唯、2Lサイズは割安で苦戦を強いられている。生産者は既に、次シーズンの栽培準備に入っている。今年、台風の接近・上陸がなく、播種・育苗は順調に推移している。品種別では、ターザンが増え、もみじ系が減る状況にある。

佐賀産地では、少量の冷蔵物の在庫以外の出荷は終了している。今年産は5月の安値と病害で、生産者手取りが皆無になったことで、栽培意欲が減退し、次シーズンの栽培を見送る生産者が散見される。生産者の主力は、価格安定

事業の価格差補給金の交付や次期作支援助成金を期待して、昨年並みの作付を計画している。ただ、種子の購入量は前年に比べるとかなり少ない。此の先定植期を迎えるが、9月中旬以降の播種は、苗立ちが順調で、極早生種は草丈7～10cm、下旬播種の早生種の草丈は6～8cm、その後の中晩生は5～7cmで、いずれも順調である。此の先、天候を見定めながら早生のマルチ張り作業が始まる。

### **北海道産地**

今年の北海道産の作柄は、予想以上に好転し、ホクレンの9月10日現在の作付・生産動向調査では、平均反収は5,900kg前年比103%、生産量は748,462トン前年比102%、出荷量は714,588トン前年比102%。とやや上方修正されている。出荷は前年に比べかなり前進化し9月末までの生食向けの出荷は前年比15,000トン以上多いと予想されている。台湾・韓国向け輸出も現在までに10,000トン程度出荷されている。他方、加工・業務向け出荷はかなり後ズレしている。10月の市場向け出荷は前年を10～15%程度上回る出荷が続いている。反面、市況は前年比10%程度安く、再生産価格を下回っており、昨年に続き生産者は収入減に苦しめられている。生産者の多くは、早い機会に新型コロナが収束し、市況が回復することを願っている。

### **輸入動向**

9月の輸入は、速報値で18,767トン前年比91%。日本の需給はコロナの影響で、依然外食需要の不振が続き、総じて需給緩和で市況安が続いている。他方、輸入は9～12月の輸入相手国である中国、アメリカの国内需給はタイトで、高値水準が続いている。主力の中国物の輸入量は18,531トン前年比90%、アメリカが131トン前年比72%、ニュージーランドが103トンで前年9月の輸入はなし。

中国、減反と国内需要の増加でマーケットが堅調で、山東省産の在庫不足から、

甘肅省産への切り替わりが前進化し、現地価格は高値を維持している。日本向け価格は、剥き玉・20kg・C&F・\$ 8.60。皮付・\$ 7.00 の水準である。

アメリカ、今シーズンの貯蔵性玉葱の作付面積は、74, 733エーカー(≒29, 900ha)前年比96%。日本向けの主力産地ワシントン州は89%、10月初めの在庫量は前年比95%、球肥大は良好とのこと。アメリカ国内のマーケットは、日本と同様にコロナの影響で外食需要が落ち込み、小売り需要は好調でJサイズは\$ 5.50~7.00 の取引となっている模様。各パッカーは国内販売に軸足を置いており、輸出に対する関心が薄い。日本向け価格は、Jサイズ50lb・C&F・\$ 11.00 の水準である。

## 11月の市況見通し

何れの市場も北海物主力の販売で北海物の独断場となる。従って、市況はホクレン主導の相場展開となる。当然出荷調整で値上げを志向するか、在庫と需要を考察し、拡販を推進するか、俯瞰的、総合的に対処するものと思われる。11月は倉入れの最盛期になり、倉入れが終了すれば、産地の在庫量は確定し、ホクレンの販売対策が期待される。今年は、府県産の出荷減や輸入の減少で、北海産の出荷は例年になく前進化しているので、需給の改善は早いと見る向きもあるが、一般的には、コロナが収束しない限り、品余り傾向で軟調相場が続くと見ている。11月は出荷調整で多少の需給改善は期待出来るが、相場的には横這いか、弱保合と予想している。(了)